

2006年5月19日
東京大学医学部附属病院
広報企画部

第6回 記者懇談会ご案内 (緩和ケア診療部) 平成18年5月25日

皆様におかれましては時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
この度、5月25日(木)に第6回記者懇談会を開催いたします。第6回目は、緩和ケア診療部の中川 恵一 部長となります。患者側の視点から、日本のがん治療の現状と問題点を幅広くお話いたします。
つきましては下記の要項をご確認頂き、適宜お申し込みくださいますよう、宜しくお願い申し上げます。皆様方の多数のご参加をお待ち致しております。
(※概要につきましては次頁をご参照ください。)

【開催日時】平成18年5月25日(木) 17:00~19:00

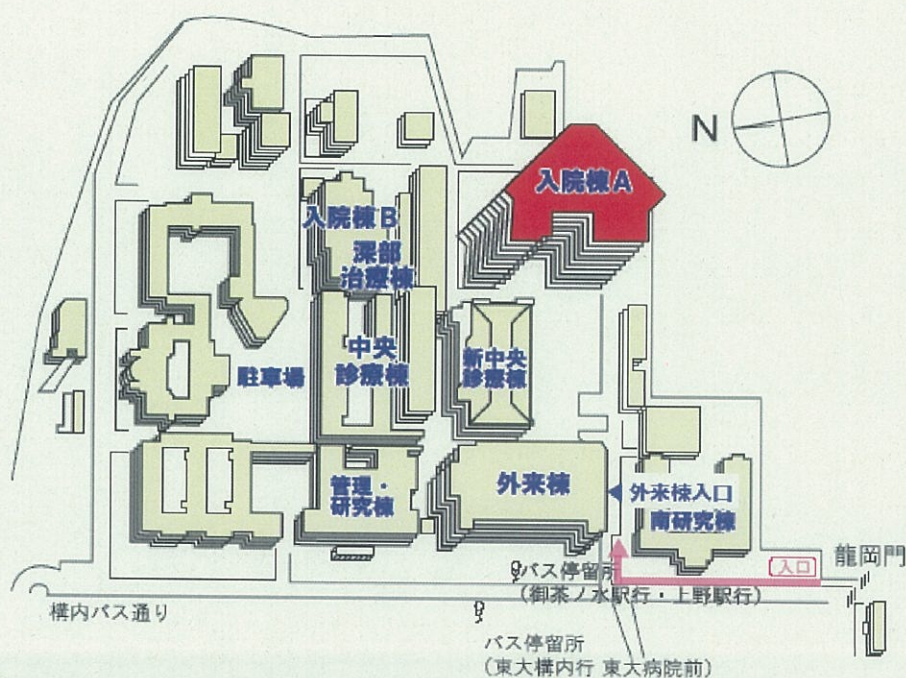
【開催場所】東京大学医学部附属病院 入院棟A1階 レセプションルーム

【講演者】東京大学医学部附属病院 緩和ケア診療部 中川 恵一 部長

【お申込方法】東京大学医学部附属病院 広報企画部までメール (pr@adm.h.u-tokyo.ac.jp)
にてお申込ください。

〆切 平成18年5月22日(月) 17:00迄

【会場地図】



【演 題】「日本のがんのウィークポイント：放射線治療と緩和ケア」

高齢化を背景に、がんが急増しており、10年後には、2人に1人ががんで死亡すると予想される。日本人は、「がんになるまで生きる」ようになったのである。

わが国では、これまで、手術の比重が極端に高く、放射線治療が極端に少ないという特徴があった。現在、米国では、がん患者の6割が放射線治療を受けているが、日本では4人に1人程度である。しかし、10年後には、日本でも、がん患者の半数近くが受けることとなる。この時期には、国民全体の、延べ4分の1が放射線治療を受ける勘定になるが、放射線治療の専門医は500名と圧倒的に不足している。

また、日本人の「不死感」などにより、日本のがん治療では、cureとcareのバランスが崩れており、緩和ケアの充実が急務であるが、人材育成のシステムがないなど、問題が山積している。患者側の視点から、日本のがん治療の現状と問題点を考えたい。

【お申込・お問合せ先】東京大学医学部附属病院 広報企画部

電話（直通）：03-5800-9188 e-mail: pr@adm.h.u-tokyo.ac.jp

お席の確保等の調整があるため、参加ご希望の方はメールにて事前のお申し込みを宜しくお願い申し上げます。

〆切：平成18年 5月 22日（月）17：00迄
